

肝細胞癌、ヨーロッパの主要因は喫煙・生活習慣病

Harvard School of Public Health の Trichopoulos らが、欧州人を対象とするコホート研究（患者 115 名）を行った結果、HBV・HCV 感染よりも喫煙の方が肝細胞癌発生への寄与度が高く（47.6%）、またアルコール高消費・肥満も、高い割合をしめていたことが、「Journal of Clinical Oncology」誌に報告されました。



この結果から、先進国における肝細胞癌のメジャーな発生要因は、生活習慣であることが確認されました。

